

いわむら町まちづくり実行委員会（恵那市）

中心市街地

文化・歴史・イベント

取組の背景

- ・恵那市岩村町は人口 5,578 人 (H18. 11. 1 現在)
- ・城下町として 400 年余りの歴史の中で生き続けてきた町で、国の重要伝統的建造物群保存地区、岩村城址「日本 100 名城」、農村景観日本一(富田地区)などの観光資源がある。
- ・旧岩村藩は佐藤一斎の他、林術斎(儒学者)、下田歌子(女子教育)、三好学(植物学)などを輩出した教育藩である。
- ・設立経緯：

昭和 60 年に岩村城築城 800 年の記念事業として「いわむら城址薪能」を、町、商工会、観光協会等が一体となって実施した。

その後、行政が出来ないことを住民が行っていかうという声が上がリ、多くの人達の英知により、「何かをやらなければ」「とにかくやってみよう」という声からまちづくりが生まれた。



いわむら城址薪能ポスター

取組の概要

○取組団体の概要

- ・所在地：恵那市岩村町 263-2 町並みふれあいの館内

- ・設立：昭和 62 年 1 月
- ・会員：約 90 人
- ・役員：会長、副会長(2)、部会長(4) 他
- ・財源：市交付金、イベント事業収入 他
- ・組織：運営委員会(各種団体の長)

実行委員会の目的を達成するため、事業の推進及び運営に関する重要事項について協議等を行うために設置されている。

実行委員会～

- ①総務部会 担当：いわむら城址薪能などを担当
 - ②文化部会 担当：岩村城女太鼓
 - ③広報渉外部会 担当：いわむらレディースマラソン、広報発行
 - ④企画部会 担当：ファミリーウォーク、秋の月待お堂巡り
- 毎月部会、正副部長会議を開催

- ・事務局：1 人

取組の内容

行政が出来ないことを住民が行っていかうという声は、商工会青年部から上がり、当時の商工会副会長が会長となり、「いわむら町まちづくり実行委員会」が発足した。実行委員会には、商工会長、観光協会長、商店会長、区長会長を始め、議会議長、助役、教育長などの町内の全ての団体の長を運営委員会に入れて発足し、町全体で行っていくこととなる。

まちづくりの第一歩は、人づくり。目先の利益より、今何かをやることによって、人の輪が出来ていく。それには、中心となるイベントを育てていくことが大切との精神でまちづくりを進めてきた。各種のイベントは実行委員会が企画し、その財源を行政が補助することで、住民と行政が一体となってまちづくりを進めてきた。

【主なイベント】

- ①いわむらファミリーウォーク(平成元年に第 1 回を開催) 毎年 6 月に開催
日本三大山城の岩村城址や重要伝統的建

造物群保存地区の町並みの中にある 10 カ所のポイントをスタンプラリー形式で巡るウォーキング大会

②いわむら城址薪能(昭和60年に第1回を開催) 毎年8月に開催

かつて岩村藩の藩主邸があった場所で開催される野外能。月の光と薪の薄明かりの中で上演され、日本の伝統芸能の醍醐味を味わうことが出来る。

③秋の月待お堂めぐり(平成6年に第1回を開催) 毎年9月に開催

秋の収穫期を迎え、黄金色に染まった田園・農村景観日本一地区(富田地区)に点在する5つのお堂を含めた10カ所のポイントを巡るスタンプラリー

④いわむらレディースマラソン(昭和63年に第1回を開催) 毎月12月に開催

かつて岩村城主のひとりに「織田信長の叔母」がいたことにちなんで、現代版女城主に女優の渡辺美佐子氏を迎え、「女城主の里」づくりをテーマとして始まった女性のマラソン大会

⑤日本三大山城交流

備中松山城(岡山県高梁市)、高取城(奈良県高取町)、岩村城(恵那市岩村町)との交流

平成18年8月には、18年4月に(財)日本城郭協会の「日本100名城」に3城が共に選定されたことを記念し、「日本三大山城サミット」を開催

⑥岩村城女太鼓

女性を前面とする町づくりを考え、女性ばかりのメンバーによる岩村城女太鼓を組織し新しい郷土芸能として平成元年より開始

成果

- ・まちづくりの第一歩は、人づくり。目先の利益より、今何かをやることによって、人の輪が出来ていく。それには、中心となるイベントを育てていくことが大切との精神でまちづくりを進めてきたことにより、地域住民の「まちを愛する気持ち」や「来訪者をもてなす気持ち」を育む結果となる。

【具体例】

- ・商工会が中心となった、プランターによる花

飾り、空店舗や空ウインドーを利用したミニ資料館等の設置、各戸の玄関に女主人の名前を印した「城下町女主人のれん事業」などが生まれていった。

- ・あるお店が、まちを歩く人に見てもらおうとお雛さまを飾り始めたことがきっかけとなり、商工会の呼びかけにより50軒ほどの民家や店舗で「城下町のおひなさん」を飾るようになる。
- ・恵那市から伝統的家屋の活用募集をきっかけとして、商工会青年部に所属する7名で町おこしに特化した法人を設立し、蕎麦屋を始める。

成果の要因

岩村城築城800年の記念事業として「いわむら城址薪能」を、旧岩村町、商工会、観光協会等が一体となって実施したことを契機に、行政と地域住民が役割分担を行い、協働してまちづくりを進めて来たことが大きな要因となっている。

今後の課題

- ・市町村合併により、行政区域の枠組みが変わり、大きな恵那市の中の一地域となり、合併後の旧岩村町の地域振興事業を展開する組織「城下町ホットいわむら」との役割分担を検討する必要がある。
- ・旧岩村町時代は、企画は実行委員会が行い、その財政的な支援を行政が行っていたが、新市になり、今後の行政の支援体制が不透明な点があるため、イベントの継続性が懸念される。

この人にお話をうかがいました！

いわむら町まちづくり実行委員会

会長 藤井志朗さん
副会長 鈴木義昭さん
事務局長 田中丈雄さん

調査日：平成18年11月14日(火)

調査者：東濃振興局恵那事務所 長沼